

【質問内容】

1. 安来市の農業ビジョンについて
2. 平成30年度当初予算案と今後の財政方針について
3. 地域活性化と民泊事業について

▼○9番（作野幸憲君）▽ 議席番号9番、作野幸憲でございます。今定例議会、一般質問最後になりますので、しっかりと質問をさせていただきたいと思っております。

最後になりますと質問も重複する部分があるかと思っておりますが、答弁のほうよろしく願いいたします。

それでは、まず1つ目は、12月定例議会の続きの「安来市の農業ビジョンについて」質問させていただきたいと思っております。

12月定例会の私の一般質問で時間がなくなり、市長から答弁がいただけませんでしたので、再度その質問をさせていただきたいと思っております。

安来市の基幹産業は農業と製造業でございます。このことは我々議員も執行部の皆さんも、いろいろな場面でそう言うておられます。しかしながら、私は明確に安来市の農業ビジョンについてなかなか説明ができませんし、農業関係の会議などでも、安来市の農業ビジョンはどうなっているんだということをよく聞かれております。

今年から減反政策がなくなり、反当当たり7,500円の米の直接支払制度も廃止され、農業は大変厳しい時代に入ってまいりました。先般、私が役員を務めております営農組織で、平成30年度の予算を立ててみましたが、反当当たりで1万円に近いぐらいの減収が見込まれるということで、これを見たときに、わあ、こりゃあ相当厳しいんだなということを感じました。私が役員をしている平場の地域でも、今後どうやって農業を守り、維持し、将来に繋げていくかということは、想像以上に大きな課題になってくると思っております。

ですから、こういう時期だからこそ、市長さんはどのような安来市の農業ビジョンを持っておられるのか、市長さんが目指しておられる将来の安来市の農業ビジョンについて、是非ともお聞かせいただきたいと思います。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ 作野議員さんの質問にお答えいたします。

まず、安来市の農業ビジョンについてであります。まず市内どの地域でも快適に農業が営めるための整備を推進することが重要でございまして、同時に、集落営農組織の設立や新規就農の受け入れなど、若者が夢を持って農業に携われる環境づくりを進めているところでございます。また、直売所や給食センターを通じた地元産農産物の生産、供給の好循環による地産地消を推進し、地元農家の生産意欲向上や安心・安全な農産物の提供を推進しておるところでございます。

さらに、安来市は中海宍道湖大山圏域の人口及びおよそ60万人を抱える地域でございます。関西、山陽などの交通の要衝にも位置をしております。この立地条件を生かしながら、地域の特産物や高品質な農産物の供給、出荷を推進していきます。

以上でございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 失礼しました。

今農業ビジョンを語っていただいたんですが、ビジョンということになると、ある程度どの期間でこれをやっていくかということが、今言われたことが5年後なのか10年後なのか、あるいは15年後の目標なのかということも私はそれが大事だと思うんですが、そのビジョンという範囲の中で、市長さんどれぐらいの時期までにそういうものを達成したいと思われませんか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ ビジョンの個々の施策につきましてはそれぞれありますので、これがいつまでということではございません。今安来市は、ご承知のように西日本、ひいては日本でも有数の大型ほ場整備を行っているところでございます。そして、そこには国、県、市が一緒になっていろいろな形で支援をしているところはご承知のとおりだと思います。

その中で、米のみならず、いわゆる高付加価値の作物をつくっていただいている。あるいは法人化をして経営改善をしていただいた。いろいろなところでやっております。これいつまでにこれがというようなことは、なかなかそれぞれの政策がございますから、今ここでは大ざっぱにこういうことは言えませんが、ご承知のように、今安来はイチゴであれ花卉であり、大型ほ場整備で、あるいは法人化で、全安来の農協の組合長山根さんは、本当に安来は島根県では一番進んでいる。中山間地の問題とかたくさんあります。後継者問題、不耕作地の問題とか、たくさん課題はありますが、それでも島根県でトップクラスの農政をやってる、こういうふうには自負をしております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 今回はこれぐらいにしたいと、12月の続きですのでこれぐらいにしたいと思いますが、また別の機会に農業についてはじっくりとお聞きしたいと思っております。

それでは、2つ目の大項目、「平成30年度当初予算案と今後の財政方針について」質問をしたいと思います。

それで、きょう通告はしてありませんが、今朝の山陰中央新報を読みましたら、安来市立病院と市広瀬庁舎、老朽化で建て替えへ、時期や規模検討、建て替え方針を決めたというような報道が出ておまして、市民の皆様からも問い合わせをいただいたりしております。

このことについては、市立病院についてはいろいろな議論をしている途中、方向性もどうしていくかという議論で、市の広瀬庁舎については、公的な場面でも議論が行われていない部分のことが報道されましたので、これについて市長さんはこの報道についてどのように思っておられますか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ 市立病院については、ご案内のように先日の永田議員さんの、これを存続する場合には耐震化かあるいは新築かという二者択一の質問でございましたので、これは今耐震化しても大変費用がかかるということで、これなら規模はどうあれ、時期はどうあれ、いわゆる新築のほうでというふうに思っているということをお答えしたまでです。

これはもともとまだまだご案内のように財政をきちんとしてから、そういう余力ができてからの話でございますから、あの記事を見ていただくとわかりますように、最後には財政と相談して、今の3大事業がまだ借金があるうちとか、めどがつくまでということは、あの記事の最後を読んでいただければわかると思います。

この広瀬庁舎についても、私は以前から分庁方式でやっておりますから、その一部として、具体的にするようになれば議会に相談しますが、基本的には私は分庁方式をしておりますから、そこの施設の一部が老朽化すれば、当然それは新築をせざるを得ないということでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 私が心配しますのは、これから財政の話もさせていただくんですが、財政状況が今回の予算編成の方針とかにも厳しいということが書いてあって、その中で今回の記事がひとり歩きをしていくということが、それに対していろいろなことが意見が出てくる。そのことをすごく心配しているわけです。ですので、昨日の一般質問でそういう答弁をされましたので、今後、この2件について、本当に方針として決められたということであれば、財政方針も一定の期間においてしっかりと計画を立てていただくということになると思いますので、そのあたりは慎重にそして明確に市民にも納得していただけるように説明をしていただきたいですし、我々議会のほうにも、余り今までは広瀬庁舎の部分については特にはっきりとそういう主張を聞いておりませんでしたので、そこらあたりは考えていただきたいと思います。

それでは、まず平成30年度当初予算の予算編成方針についてお聞かせいただきたいと思っております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 池田総務部次長。

▼○総務部次長（池田周一君）▽ 平成30年度の予算編成につきましては、引き続き第2次安来市総合計画の将来像、「人が集い 未来を拓く ものづくりと文化のまち」の実現に向けた施策及び安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略による人口減少対策と、安来市の創生を目的とした施策への取り組みを重点的かつ着実に推進することとし、中期財政計画

を踏まえ、所要の経費について予算措置をいたしました。また、厳しい財政状況の中、行財政改革の徹底を図り、創意工夫を行いながら多様化する市民ニーズを的確に把握し、事業の成果や優先順位を検証し、さらに緊急性、重要性、費用対効果、事業規模、実施時期や周期の設定などを行いながら事業を選択したところであります。

さらに、第3次行政改革大綱、同実施計画で位置づけた取り組みを実施し、歳出の適正化、将来負担の軽減を図ることとし、特に市の保有する公共施設については最適な維持管理、運営を行うため、公共施設等総合管理計画を着実に推進するものいたしました。

本市の歳入の根幹をなす市税につきましては、課税客体の的確な補足に努めるとともに、財源確保はもちろん、税の公平性の観点から収納率の向上に向け一層取り組みを強化することとしております。

以上です。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 30年度当初予算、私見まして、地方創生関係の予算が余りはっきりと見えなかった部分がありました。国の平成30年度地方創生関連予算では、地方創生推進交付金に1,000億円、地方大学地域産業創生事業に100億円、それから総合戦略等を踏まえた個別施策に6,777億円、まち・ひと・しごと創生事業費に1兆円など、物すごい金額が計上されております。安来市の当初予算に反映されている事業はどれぐらいありますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 池田次長。

▼○総務部次長（池田周一君）▽ 地方創生推進交付金を財源とした事業では、中海宍道湖大山圏域で広域連携し、そのスケールメリットを生かした産業振興や観光振興、環境保全、人材育成など、さまざまな分野において共同事業を行っていくこととしております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 今聞きますと、その一つのようにございますが、国ではこれだけ多くの予算が計上されておりますが、ほかのものにはなかなか使い勝手が悪かったというようなことでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 池田次長。

▼○総務部次長（池田周一君）▽ なかなかその対象の要件となるハードルが若干高かったということがあります。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 私も以前から、何でもかんでも飛びついてということに対してはどうかということがありましたので、ハードルが高くて将来的なことを考えるとなかなか手を出しづらいということは、私は正解なのかなとは思っております。

しかしながら、安来市の、先ほども説明がありましたが予算編成の基本的な考え方の中に、総合戦略、人口減少対策ということがうたっておりますので、それについては余り影響はないという認識でよろしいでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 池田次長。

▼○政策推進部次長（内田貴志君）▽ 総合戦略によります人口対策に影響はないのですかというご質問でございますけれども、国の交付金を活用した人口対策といたしましては、先ほどの質問でお答えいたしましたように、中海宍道湖大山圏域市長会で事業を行っております。

あわせて、交付金を財源としていない事業につきましても、市の内部組織や外部委員によります事業評価を行い、そこで出た意見を関係各課に展開するなどしながら、総合戦略に掲げました各事業が人口対策として有効に働くように努めております。

以上でございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ それでは、平成30年度予算編成をされて、類似事業の統合や削減、縮小できる事業はどれぐらいありましたでしょうか。また、具体的にどのような事業でどれだけの成果を出しておられますでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 池田次長。

▼○総務部次長（池田周一君）▽ まず、予算編成に当たりましては、予算要求のあった全ての事務事業について検証を行い査定を行ってまいりました。その中で、事業の効率化や所期の目的を達成した事業につきましては、一定の見直しを図っております。

主なものですが、事業を削減したものは、住宅取得補助事業など15事業、金額にして3億1,000万円余りであります。廃止した事業につきましては、ペレットストーブ設置補助事業など7事業600万円余りであります。そのほか、事業統合を含めると金額にして3億2,000万円余りとなります。ほかに予算には直接反映されない事務事業の見直しや事務経費などの経常経費についても見直しを図っておりまして、特に物件費につきましては、対前年度で1,300万円余りの減額となったところであります。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 今物件費の話が出ましたが、中期財政計画では、前年度対比で4%の縮減、約9,000万円ぐらいを削減目標としておられます。これは入札減とかをされてそこまでいかれると私は理解しておりますが、そこらあたりも、今後予算を執行していかれる中でそこらあたりはしっかりと削減をしていただきたいと思っております。

それでは、次に基金についてお尋ねしたいと思います。

昨年12月に示されました中期財政計画では、平成30年度の財政調整基金の基金残高は約15億円、当初予算案では約12億6,000万円となっております。このままでは中期財政計画より1年早く、3年後ぐらいには枯渇することが予想されるのかなと私は思っておりますが、そして、全体の基金残高も中期財政計画では平成30年度が約71億円でしたが、当初予算案では約66億4,000万円となっております。これを見ますと、中期財政計画より当初予算案では全体の基金残高も減ってきておりますので、これは減っていくペースが少し早まったというふうに理解してよろしいでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 池田次長。

▼○総務部次長（池田周一君）▽ 今議会で議決をいただきました平成29年度一般会計補正予算（第6号）のように、歳入の繰入金では財政調整基金、特定目的基金などの取り崩しを当初予算計上額よりも4億3,500万円減額するとともに、歳出の基金費では財政調整基金に1億円を積み立てております。

平成30年度予算で計上しております基金の取り崩しの中には、事業の前倒し、起債事業からの財源振り替えなど増になった要因はありますが、このたびの補正予算と同様に、最終的には決算見込みより調整することができると考えております。中期財政計画は決算ベースで策定をしておりますので、当初予算と差異があるものと考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ そのことは私も当然わかっておりますが、過去の安来市の決算と中期財政計画の数字とかを比べると、やっぱりその中期財政計画より決算のベース、決算を終わった後もやっぱり多く経費がかかっているというのは、もう過去のデータを見るとそうなるので、そのことは今は決算見込みでという話でしたが、そこらあたりはちゃんと中財に沿ってやっていただきたいと思っております。

それから、これからはちょっと市長さんにお尋ねしたいと思うんですが、以前から私も財政に関してさまざまな質問をしてまいりました。その中で、以前安来市には財政規律がありますかという質問をしたことがあります。そのときの答弁では、安来市の中には財政規律というようなもの、明確なものはないということでしたが、ことしの当初予算の予算編成においても、中期財政計画を基本とした予算編成方針、これでもって進むこととしておりますという以前の答弁があったわけですが、しかしながら、中期財政計画を基本に編成していった結果、財政調整基金の枯渇も迫っておりますし、中長期の財政見通し、これは見通しですからこれでは平成39年度に基金全体の残高が27億2,000万円まで落ち込むということも言っておられます。

きのう、広瀬庁舎の件と市立病院の件が方針を決めたということになってきますと、まだ期間はわかりませんと言われるんですが、10年後には基金全体で27億円ぐらいしか見込みでは残らないと言っておられますが、これがますます厳しい状況になるのは、今の状況からいくと避けられないと思います。

ですので、本当にこのままで安来市財政が大丈夫なのか、本当、これでいいのか、そこらあたり市長さんはどのようにお考えでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ あくまでもこの39年度末の基金全体の残高27億2,000万円、これはあくまでも現在の状況をそのまま推移したという仮定でございます。10年後、29年度ですから10年後のことはなかなか、ご承知のようにいろいろな不確実な要素がございます。今から10年ほど前にいくと、前の執行部が立てた予定では、平成19年が24.5%の実質公債費率が5年後には21.6しか改善できないとしたものが、これは実際には15.3%、10%近く

改善できたり、あるいは基金が31億円だったものが、いろいろな好条件が重なって92億円、すなわち61億円ふえたとか、いろいろな合併算定がえが6割から7割まで揺り戻したとか、あるいは消費税増税の地方分が取りやすくなったと、いろんな条件がここに入ってくると思います。

あくまでもこれは今の条件下でいくということで、よく200年後には日本の人口はこのままでいくと1人も日本列島にいないよということが出てます。そういうふうに、今の前提でいくということでございますので、我々は決して楽観はしておりませんが、いろいろな不確実な要素、私が10年ほど担当させていただいても、さまざまなことが、いいほうにも入ってます。だからこういうことを勘案しながら、慎重に財政運営をしていきたい、こういうふうに思っております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ それは私も重々承知をしておりますが、実際の数字が厳しい数字が出ているということはこれは事実ですので、そこらあたりは本当にしっかり考えて財政運営をしていただかないといけないなと思っております。

それと、昨年ゼロベースへの見直しをするということを市長さんの指示のもとで、例年より精査をして見直しをされたということでございますが、その結果、やっぱり基金に頼らざるを得ないということと、早い段階では単年度収支が黒字にならないということは変わっていないわけです。いつもじゃあどうされますかという質問をすると、担当部局は、少しでも早い段階で実質収支の黒字化を達成したいと思っております、基金の枯渇にならないようにしたいと思っておりますと言われるんですが、これには具体的な方策は全く示されていないわけです。

私は、担当部局は市長さんの指示のもと、それに沿ってそういうことをやられたわけですが、それでもなかなかできなければ、やっぱり市長さんが、新しい財政計画とはあえて言いません。財政方針を示していただければ、全体としてじゃあどうやって削減していくかとか、そういうことは私はできないと思っております。市長さんは新しい財政方針とかをお考えになっているのか、それについてはいかがでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ その前に、もちろんそれについてはいろいろな産業振興とか、そういうものをどんどん打ち出していかないとはいけません、ちょっとこの周辺の各市の財政を少し参考に読ませていただきたいと思います。

これは出雲市です。出雲市もこれ四、五年で38億円の減債基金から受け入れ、そしてこれ松江市も平成31年度には収支23億円の赤字とする中期財政見通しを公表、そしてまた、米子市はこの平成17年から平成21年まで、収支の累計は約45億円の赤字が見込まれる。これインターネットをとっていただければ全部出てます。それから、浜田市もこれ大変な、この4年間の累積赤字が42億円、これインターネットでとっていただければ全部わかります。こういうふうに、地方財政は本当に大変なんです。

ですから、私はよそもこうだから安来市もいいなんていうことは言いません。これはまだ益田市は全ての基金がもう5年後ぐらいには十数億円です。全て減債基金ばかりじゃないです、どこの基金も。これ見ていただければわかりませんが、その中では、まず安来はまあまあよくやっているほうじゃないかなと思って自分では思っておりますが、決して基金が減ることはいいことではありません。今から10年ほど前に、七、八年前みたいに61億円も積み増したように、ぜひとも積んでいくような方策で頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 今のお話を聞くと、基金を積み増していくという財政方針でいかれるということではよろしいんですか、はい。

今各市町村のこと、市のことを言われましたが、私はほかの市はどうでもいいんです。安来がどうしていくかということ、それが一番なんです。比較してもこれは比較対照してどうにかなるという比較の仕方では私はないと思いますので、こういうところでこういう数字を出されて比較される意味が私にはわかりません。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ 殊さら何か安来市だけがどんどんどんどん赤字でそういう態勢になっていくような印象がありますから、市民の皆さんもきょうは恐らく数千人聞いておられますから、誤解のないように説明をしたわけでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ くれぐれも子供や孫にツケが残らないような財政運営をやっていたきたいと思います。

それでは、最後の大項目、「地域活性化と民泊事業について」質問をいたします。

安来市にはビジネスホテル、シティホテルと言われるものがなくて、ビジネス客はもちろん、中海マラソン全国大会などの大きなイベントをしたときも、市外からのお客さんの宿泊の多くは市外を利用されているのが現状だと私は認識しております。つまり、安来市にお金がなかなか落ちないということです。このことは観光振興や地域活性化を進めていく中で、私以前からずっと安来で言われてきた大きな課題だと考えております。このお金が落ちないということについてどのように考えておられますか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 宮田次長。

▼○政策推進部次長（宮田 玲君）▽ 本市には安来節、足立美術館、清水寺、月山富田城址など、多くの他市にはない貴重な観光資源がございます。宿泊施設の稼働率はインバウンド効果などによりまして順調に推移をしております。議員ご指摘のとおり、大型イベントなどに際しては宿泊施設の収容人数やシングルユース志向などから市外へ宿泊される状況であり、この部分については残念に思っているところでございます。

以上です。



▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 宿泊施設が足りないとかビジネスホテルがないことだけでは私はないと思っております。やっぱり政策的にもしっかりとした政策を私は打ち出している必要があると思えます。以前から市長さんは民業圧迫だからなかなかビジネスホテルなどは積極的にやらないという方針を言っておられますが、私はほかにも、そこをもう言っても市長さんはそういう方針ですから、ですが、ほかのことができることがあるなと思っております。ただ単に指をくわえて待っているということでは私は何事も解決しないと思えます。そこで、そのお金が落ちないことに対して、何か解消するような手立てを考慮しておられますか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 宮田次長。

▼○政策推進部次長（宮田 玲君）▽ 宿泊施設の増加に向けては、民間での取り組みによるところが大きいと考えております。市内の年間宿泊者数、それから宿泊施設の収容人数から鑑みますと、稼働していない部分もあると考えられます。市といたしましては、市内宿泊施設の稼働率が少ない平日、それから冬期向けの誘客を推進してまいりたいと考えております。今後さらに清水寺の座禅や精進料理、安来節の体験等を初め、安来市の魅力をPRしていくことで誘客と消費拡大を図っていきたくと考えております。

以上です。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ それでは、現在ある市内の宿泊施設では、最大何人の受け入れ、キャパシティーがありますか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 宮田次長。

▼○政策推進部次長（宮田 玲君）▽ 部屋数が約120室、それから収容人数が約450人となっております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ ことし9月に尼子一族全国大集会、戦国尼子フェスティバル、それから全国山城サミット安来大会が月山富田城とアルテピアで開催をされるわけですが、市外、県外からも多くのお客様が安来に来られるというふうには聞いております。大会規模はどれぐらいで、また安来に宿泊される方はどれぐらいと考えておられますでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 奈良井部長。

▼○教育部長（奈良井丈治君）▽ 大会の規模ということでありまして。昨年の佐野大会の山城サミットの入り込み客数は、地元の新聞報道によります約1万人と聞いておりますので、山城サミット、尼子一族全国大集会、戦国尼子フェスティバル、合わせてそれに負けないように努力してまいりたいというふうを考えています。

それと、宿泊される方はどれくらいかということに対しては、山城サミットにおいての過去の宿泊ですが、行政の担当者だけの宿泊ということで把握をずっとされておりまして、

その行政関係者分の宿泊者数は約50名と想定をしております。

以上です。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 50名ということですが、先ほどの話を聞いても450人のキャパがあるわけですから、なるべくほかの方にも安来に泊まっていただく努力をしていただければ、かなりのお金が落ちる。そういうことに対してもちょっと考えていただきたいと思えます。

それでは、次に中海マラソン全国大会についてお聞きしたいと思います。

私も1回目からずっと参加をさせていただいておまして、その都度アンケートが配られますので、アンケートに私も記載して出しておるわけですが、中海マラソンではそのようにアンケートをとっておられますので、参加者で宿泊しておられる方もデータがあると思えます。その中でやっぱり市内で宿泊しておられる方がどれぐらいおられるか、過去3年ぐらいのデータでも教えていただければと思えます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 大久佐次長。

▼○市民生活部次長（大久佐明夫君）▽ 中海マラソン全国大会の参加者の宿泊の状況でございます。昨年11月に開催いたしました第13回大会、当日の参加者は4,765名、アンケートは2,219名の方から回答をいただきました。アンケートにおいて宿泊したと回答された方は162名、そのうち安来市内へ宿泊された方は45名、安来市外へ宿泊された方が117名となっております。第12回大会の当日参加者は4,907名であり、アンケート回答者は2,201名、宿泊したと回答された方は176名、そのうち安来市内へ宿泊された方は64名、安来市外へ宿泊された方が112名となっております。第11回大会の当日参加者は4,996名で、アンケート回答者は2,243名、宿泊したと回答された方は119名、そのうち安来市内へ宿泊された方は74名、安来市外へ宿泊された方が125名となっております。

以上でございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 今その数字を聞いてちょっとびっくりしたんですが、ちょっと少ないというのが率直な感想です。それから、毎年少しずつ減ってきているのも心配です。参加者が5,000名ぐらいですから、倍にしてもそんなに多い数字ではないなというのが今わかりました。

それでは、次に海外からのお客様も足立美術館を初め、今安来には年間2万5,000人ぐらいは来ておられると聞いておりますが、外国人観光客の方々に市内に泊まれた方は年間どれぐらいおられますか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 宮田次長。

▼○政策推進部次長（宮田 玲君）▽ 平成29年の外国人宿泊者数の人数でございますが639人で、28年比で約40%の増となっております。

以上です。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 今いろいろな数字を聞いて、私はこれから民泊事業についてちょっと提案をしたいと思います。

現在、民泊といういろいろな事件があったりして、余りいいイメージはないのが事実ですが、それは都市型民泊と言われるもので、都市型民泊は地域との触れ合いもなくただ場所を提供するものが多くて、そういうことがあって事件があったりするのは無許可の違法な民泊が多いということのようです。

都市型民泊は管理者がホストと言われる方がいなくて、問題が起こる可能性も多いわけですが、農村型民泊はそれとはちょっと違っておまして、そうはいつでも皆さん方なかなかわからないと思いますので、まずは農村型民泊の成功事例をちょっと紹介して、皆さんにまず理解していただきたいと思います。

その事例は、瀬戸内海に浮かぶ豊島という島でございまして、これはこの島が有名になったのは、戦後最大と言われた産業廃棄物の不法投棄事件、ごみの島と呼ばれた島でございまして。当時は4,000人ぐらいの人口があったわけですが、今は1,000人ほどになり、高齢化率も45%を超える離島でございまして。この島が変わったのは、2010年に隣の直島という島と一緒に開催した瀬戸内芸術祭というのをやられまして、3カ月ほどの開催期間に17万5,000人の人がアートの魅力にひかれて島を訪れたということです。

その当時は島には民宿とペンションが1軒ずつしかなかった。お金は全く落ちなかった。そこで始まったのがこの農村型民泊でございまして。当時は総務省の「緑の分権改革事業」の実証実験として始められて、現在その豊島では9軒で民泊をしておられて、全員が60歳以上の高齢者の方です。この9軒で1日70人規模のお客さんを迎えられる態勢今つくっておられます。料金はさまざまで、素泊まり1人3,000円ぐらいから、朝食や夕食、体験などのオプションが追加されて、日帰り消費の約4倍ぐらいの島内消費を生んでおられます。

民泊を始めるに当たっての投資額は、9軒で約700万円、当然離島なので下水が整備がおくれておりますので、その投資額の多くはトイレを含めた水回りにお金を使っておられたと。現在では年間1,500人以上の受け入れをしておられます。一番もうけられる人は、年間230万円ぐらいから、少ない人でも30万円ぐらいということでございます。

この民泊については、受け入れ日数の上限がありまして180日ということになっておまして、そのホストの都合のいいときに受け入れて無理のない態勢でやっておられます。予約も民業圧迫とかを考えて、宿泊日の3週間前から3日前までの予約をとるというやり方をしておられます。この民泊というのはプロの旅館とは全く違いますので、あくまで民家に泊まっただけで、ふるさとの家らしく気取らないスタイルであくまでも本業ではなく副業でやっておられます。

地域の良さを伝え、積極的に宿泊者の皆さんと接することが魅力ということで、要は田舎のおじいちゃん、おばあちゃんの家遊びに行くような感覚でやっておられます。また、別のイメージで言うと、国体のときの民泊というのがありましたが、ああいうイメージを

持っていただけるといいと思います。

一人で全部取り仕切るのは大変なんでグループを組んで、料理をつくっていただく人は料理をつくってくださいとか、いろいろなやり方をやっておられるわけですが、基本的にはお金をほとんどかけずにやるということが、この農村型民泊になります。ですから、最低でやってもらうことは、泊まってもらうことと体験をしてもらうという、この2つなんです。

私はこういうものも安来市には積極的にこれから入れていただきたいと思っておりますが、私が今思っているイメージとしては、やっぱり広瀬地区、あの周辺、それはやっぱり足立美術館があって、多くの外国人が来られて、今の外国の方は地域の伝統文化や自然や日本の原風景などを楽しみたい。やっぱり複数日ゆったり泊まって安いところで過ごしたいというのがありますので、私は民泊というののもうすごく合ったものだと思います。

月山富田城も当然ありますから、今回も山城サミット等やって、実行委員会でも日々努力しておりますが、話を聞くと、宿泊をどうするかというような議論はなかなかその中では出てきてないという話をちょっと委員の一人の方に聞いたんですが、やっぱりただ単にボランティアをやってもらって頑張ってもらっていただくよりは、少しでもお金を落としてもらう。それから、やっぱり将来につなげて少しでも小遣いが入るようなことをやっていかなければ、イベントだけのときにそういう施策をやって、私はなかなか難しいと思います。

それから、空き家や空き部屋対策にも貢献できると思います。それは何かというと、やっぱりこの農村型民泊は、母屋の空き部屋や、今空き家予備軍と言われる同一敷地内に離れなんかがあってそれが問題になっているんですが、私はそれを有効に活用してもらう。ですから、なかなか空き家バンクに登録というと、仏さんがあるけえ、また孫が帰ってくるけんなかなか貸すことは難しいですよというようなことをクリアできる、私は可能性が高いと思っております。民泊をするに当たっては、都道府県知事への届け出が必要ですが、それ以外には余りお金がかからない。やり方次第ではお金がかからない。

そこでお尋ねしたいわけですが、広瀬地区には安来節演芸館も含めて、広瀬地区というと足立美術館もあるし月山富田城もあるし、これだけ全国でも条件が整ったところは余りないなと私は思っておりますので、6月15日から民泊新法というのが施行されるんですが、これにあわせて、ぜひとも安来市でもこの民泊を支援していただくようなことを考えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 宮田次長。

▼○政策推進部次長（宮田 玲君）▽ 民泊新法の施行によりまして、全国的に民泊の動きが出てくるものと考えておりますが、今後のニーズ、宿泊事業者や近隣住民との調整など、メリット、デメリットを考慮しながら検討をしまいたいと考えております。

以上です。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 私は、やるんだったらそれこそ山城サミットの時、何軒かの方にやってもらおうとか、中海マラソンの時期だけでも何軒の方にやってもらって、やっぱり安来は民泊やってますよということを示していただきたいと思います。

海外の皆さんが民泊を申し込まれる民泊サイトというのがあるんですが、Airbnb（エアビーアンドビー）ですが、ここは山陰インバウンド機構と提携をしております、山陰のこの地方、松江や出雲や奥出雲町や米子や、この山陰地域では20件ぐらいもう登録がしてあります。安来はないんです、全く。ですから、そういうところでもやっぱり民泊をもうちょっと広めていただく努力もしていただければと、私は思っております。

それともう一つ、今農林水産省が農泊というものを今積極的にやる。これは農家のそういう離れとか、今の農村型民泊とほぼ同じものなんですが、農泊というものにも予算をいっぱいつけてやろうとしています。これは農家の所得の向上とか、そういうものにも私はつながっていくかなと思いますが、これについてはどのようにお考えでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 仙田部長。

▼○農林水産部長（仙田聡彦君）▽ 農泊関係の規制は、もう先ほど議員おっしゃいますように、緩和されていることは承知をしているところでございますが、農家所得の向上や移住者の増加を図るには多様な業種との連携や地域住民一体となった取り組みが必要であると思っております。今後関係部署とも情報を共有しながら研究していきたいと思っております。

以上です。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 私は、旅行者のニーズに合った宿泊の場所を提供してあげないといけないと思っています。先ほど豊島の民泊と言いましたが、豊島は民泊される方の64%が女性で、20代から30代の方が多いんだそうです。30代の一人旅をしてこられる方、何を求められてくるかという、やっぱり地域の方とのコミュニケーションを求めてきておられるというのがすごくあるそうです。ですから、やっぱり今あるものも有効に施設も使っていただかなくてはいけません、新しいものに踏み出していくということも、これからは必ずやっていかないと、観光振興、スマートインターをつくられても、じゃあ何のためにつくったのみたいなことにならないようお願いをしたいと思います。

以上で私の一般質問を終わります。

▼○議長（田中武夫君）▽ この際、大久佐次長から発言の申し出がありますので。

大久佐次長。

▼○市民生活部次長（大久佐明夫君）▽ 先ほどの私の答弁の中、中海マラソン参加者の宿泊者のところで、第11回大会の宿泊したと回答された方の人数を119名と申し上げましたが199名の誤りでございました。訂正させていただきます。よろしく願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 以上で9番作野幸憲議員の質問を終わります。